

令和7年「市民と議会のわがまちトーク」報告書

産業建設委員会

開催日時	令和7年4月26日（土） 午後1時30分から3時まで
開催場所	舞鶴市役所本庁本館4階 議員協議会室等
テーマ	水産業の未来 ～「担い手」や「消費拡大」について考えよう～
参加市民	25人
出席議員	担当委員会：産業建設委員会 今西克己、尾関善之、上野修身、高橋秀策、福本明日香、松田弘幸 サポート委員会：市民文教委員会 谷川眞司、仲井玲子、伊田悦子、上羽和幸、眞下隆史、水嶋一明 オブザーバー 肝付議長 議長、野瀬貴則 副議長
内 容	

【全体概要】

多様な視点から御意見をいただくため、次のような方々に御参加いただくこととし、事前に水産業の現状に関する資料を送付することにより、一定の御理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

- (1) 漁業・養殖業者
- (2) 水産物の流通・加工事業者
- (3) 水産業を学んでいる高校生・研修生
- (4) 魚離れが懸念される若者世代
- (5) テーマに関心を持つ市民（公募）



当日は、水産物の消費拡大や水産業の担い手確保に向けて、どのようなことが必要か、市民、事業者として何ができるか、また、行政がどのような支援や施策を実施すべきかを検討した。

各グループの意見交換の内容は、次のとおり。

1班 担当議員：尾関善之 市民参加人数：5人

＜水産物の消費拡大に関する＞

【市民ができること】

- ・ 幼少の頃から魚を食べて習慣化
- ・ 夜の家族そろっての食事に美味しい魚料理
- ・ 旬の魚を知る食べる→旬の魚は美味しい
- ・ 魚を好きになる。
- ・ 魚の料理教室に参加する。

【事業者ができること】

- ・ 魚料理の動画配信
- ・ 積極的に地産地消を進める。
- ・ 魚のさばき方の講習、魚料理教室の開催
- ・ 魚は高いとのイメージを払しょくする努力

【行政ができること】

- ・ 学校給食のレシピの説明を漁師の方がしたことを契機に、イカが嫌いだった児童が、美味しいことが分かり、イカが好きになったエピソードなどを周知する。
- ・ 出前講座を積極的に広報して魚に関する情報の提供する。
- ・ 美味しい魚のレシピの公開
- ・ 給食に積極的に魚料理を出す。
- ・ 小学生の競り市場での体験
- ・ 市民に美味しい魚が提供できるよう最新機器の導入のための流通・加工業者への積極的な支援

【その他の意見】

- ・ 内臓処理に困る。
- ・ 若い方の魚離れ→肉を中心にした料理
- ・ 魚屋さんが激減している。



＜水産業の担い手確保に関する＞

【市民ができること】

- ・ 漁師さんが収入が安定するよう消費者が魚を買う→儲かる漁業者
- ・ 後継者、関係者を大切にする。
- ・ 消費拡大に努める。

【事業者ができること】

- ・ 常に高校と流通事業者との連携を図る。
- ・ 事業者の体験談を聞く機会の提供
- ・ 後継者、関係者を大切にする。
- ・ 3K職場（きつい、汚い、危険）の払しょく→最新鋭機器の導入
- ・ 儲かる実績を作る→リーダーの儲け話
- ・ 堅いイメージの払しょく→職場体験

【行政ができること】

- ・ 機械化、DX化への積極的な支援
- ・ 開業資金、維持経費の支援
- ・ 海の民学者への支援
- ・ 若手、女性が少ない→社会見学に幅広い層の方に参加を促す
- ・ 漁業権取得に対する支援
- ・ 加工、流通への幅広い支援

【その他の意見】

- ・ 今回の意見交換を契機に水産業が継続できる環境整備が必要
- ・ 課題は多くあり一つ一つ解決していく認識が必要

2班 担当議員：上野修身 市民参加人数：5人

＜水産物の消費拡大に関すること＞

【市民ができること】

- ・ 特に、成長期の子供にとって、魚を食することの重要性を認識するとともに、食卓に親が進んで魚料理を提供する。
- ・ 魚の調理方法（レシピ）に関心を持つ。
- ・ クッキング教室を開催する。

【事業者ができること】

- ・ 昔のような「魚屋さん」が消えつつある。
- ・ 加工販売を増やす。
- ・ 「魚まつり」などのイベントの開催
- ・ 魚をレシピとともに販売する。

【行政ができること】

- ・ 地元の魚を学校給食に多用する。
- ・ イベントへの協賛
- ・ 食育の推進を広報する。

【その他の意見】

- ・ 親が魚嫌いであれば、食卓に並ばない。食育の大切さを親が認識すべき。

＜水産業の担い手確保に関すること＞

【市民ができること】

- ・ 職業としての「漁業」の重要性を認識する。

【事業者ができること】

- ・ 漁業体験

【行政ができること】

- ・ 海の民学舎研修生など、遠方からの生徒には、市営住宅の提供など住宅の支援を行う。

【その他の意見】

- ・ 漁獲量制限に対する補助が、一次産業にはあるが、二次産業にはない。
- ・ 「漁師」「漁業」に対するイメージが悪い。
- ・ 安定した給料が望めない。



3班 担当議員：高橋秀策 市民参加人数：5人

＜水産物の消費拡大に関すること＞

【市民ができること】

- ・ 食べる。
- ・ 食事時はコミュニケーションをとって楽しく食べる。

【事業者ができること】

- ・ 下処理の仕方を伝える。
- ・ 加工品の流通を増やす。
- ・ バーベキューなど楽しく食べられる施設をつくる（牡蠣小屋など）。
- ・ 新たな加工品を開発する。

【行政ができること】

- ・ 魚ダンスを創り上げ舞鶴及び魚をPRする（さかなさかなという歌があった）。
- ・ 魚の写真をとったらレシピが出てくるようなアプリをつくる。
- ・ 以前あったプレミアム商品券は、消費拡大に寄与したので、ぜひお願いしたい。



＜水産業の担い手確保に関すること＞

【事業者ができること】

- ・ 経営者が楽しくないとダメである（楽しく仕事をする）。
- ・ 成功している事業者の話を学生に聞いてもらう。
- ・ カッコイイ仕事であることをもっとPRする。
- ・ もっと儲かるシステムを考える。

【行政ができること】

- ・ 漁業従事者は独身が多いので婚活をお願いしたい。
- ・ 融資や災害補償の充実
- ・ 水産業の未来についてもっと子供たちに知ってもらう。

4班 担当議員：福本明日香 市民参加人数：5人

＜水産物の消費拡大に関すること＞

【市民ができること】

- ・ 食べやすい魚や、肉に消費が集中しがちで、消費拡大や、地産地消に対する意識が少ない人が多い。
- ・ 積極的においしい魚を食べるようにする。
- ・ 嫌いだからといって家庭で出さないというのではなく、食事に魚を取り入れる。
- ・ 地球温暖化による海面上昇の変化への対応



【事業者ができること】

- ・ 加工の仕方を変える。
- ・ 魚の魅力が上がるようなPRに協力してもらう。
- ・ 未利用魚の活用の推進
- ・ アニサキス等の寄生虫除去の機械の導入等、安全に対する認識の共有
- ・ 付加価値を付けた魚の製造・販売
- ・ 養殖での餌の工夫によるブランド化

【行政ができること】

- ・ 地球温暖化による海水温の上昇に対応する施策
- ・ クジラの増殖による魚の捕食による漁獲量の減少への対策
- ・ 子どもや家庭で魚を知ってもらう取組
- ・ 美味しい海産物のPR
- ・ 「艦めしフード」のような企画でのPR
- ・ 寄生虫除去の機械購入への助成

＜水産業の担い手確保に関すること＞

【市民ができること】

- ・ 漁業の伝統を受け継ぎ、漁村の子どもの減少への関心や、新規就業者が漁村に住むが難しい側面を改善する。
- ・ 漁業の偏見をなくす。
- ・ 漁場を守り、漁師が困らないようにする。

【事業者ができること】

- ・ 漁師の荒い部分の改善と、イメージを変える取組
- ・ 漁師は荒くて怖いイメージを変えると担い手を志す人が増えると思う。
- ・ 新規就業者の漁業組合の参加や、漁村での受け入れ態勢の構築
- ・ 女性でも出来るというアピールや、設備の改善。技術を高めた商品に今まで以上に特化する。
- ・ 漁業3Kを変える。

- ・ 魚を運搬するトラックの運転手の確保
- 【行政ができること】**
- ・ 漁場の安全確保
- ・ 漁船への設備支援
- ・ 新規就業者と漁村との調整や橋渡し
- ・ 体験学習などの機会を増やし、専門学校だけでなく、一般校にも働きかけるなどする。
- ・ 漁村に住むためのガソリン代等の補助
- ・ 漁協から魚を運搬するトラックの運転手の確保や補助等の支援策

5班 担当議員：松田弘幸 市民参加人数：5人

＜水産物の消費拡大に関すること＞

【事業者ができること】

- ・ 美味しい魚を提供する事が大切で鮮度や活メをすることが大切である。一方で、鮮度が良過ぎて加工に向かないこともある。
- ・ 美味しい食べ方・レシピや旬を伝える。美味しく食べるための調味料などの開発
- ・ 美味しい冷凍食品（加工された物）や輸入の魚の提供、価格を安く提供する。
- ・ 漁業体験をしていただき、とれた魚を食べていただく。
- ・ 会員制で旬の魚を定期的に届ける。



【行政ができること】

- ・ 美味しい食べ方や旬を伝える。
- ・ 魚イベントの開催
- ・ 若い世代から魚を食べるようにする。

【その他の意見】

- ・ 取れたところで購入し食べられる施設があるとよい。

＜水産業の担い手確保に関すること＞

【市民ができること】

- ・ 魚つりを気軽にすることにより漁業に関心が持てるのではないかと。

【事業者ができること】

- ・ 高収入と安定した収入が担い手の確保につながる。
 - 漁業で魚を取るだけでなく副業を合わせてする。（どのような副業があるかを伝える。）
 - 漁業従事者の給与の明確化と所得の一定確保
- ・ 若者の担い手確保にはWi-Fi環境を整えるべき。
- ・ 漁業の魅力をPRする。

【行政ができること】

- ・ 漁業の魅力をPRする。
- ・ 漁業者受け入れ用の家を確保する。
 - 空き家バンクの支援制度の説明を事業者にする。
 - 漁業者用住宅の整備
- ・ 漁業に従事した際の継続的な長期支援が必要である（10年程度）。

【その他の意見】

- ・ 海の民学舎卒業生を2人受け入れた際に1人分の支援しかない。

【今後の予定】

水産物の消費と水産業の担い手に関する課題を再認識し、消費拡大と担い手確保に関する意見交換をすることで、課題の解決に向けた意見・アイデアを共有することができた。

出された意見をもとに調査研究を進め、行政が実施すべき支援や施策などを整理して、市への提言を目指す。